

シシオザルにおける動物福祉向上を目的とした取組み

岡崎 孝樹

当園ではシシオザル(*Macaca silenus*)を7頭飼育している。筆者が担当に配属された際に飼育管理上の課題があったため、改善に向けて実施した取組みをまとめた。まず環境エンリッチメントに関しては、裏飼いの個体が多いためバックヤードでの取組みを促進した。寝室にフィーダーと止まり木を増設し、フィーダーは効果を検証した結果採食・探査行動の継続時間が有意に増加していた。また、展示場にはキャットウォークと防寒用の小屋を新設した。また、本来群れで生活する習性を考慮し、交尾機会の増加も兼ねて繁殖可能な雄1頭と雌2頭を終日同居させた。これにより雌2頭が妊娠した他、親和的行動の発現も見られたことから、動物福祉の面でも良い影響があったと考えられた。栄養面では従来の飼料の栄養評価を行い、主に蛋白質、食物繊維の割合を増やすように調整した。今後はこれらの取組みの評価・改善を継続し、シシオザルの飼育技術向上に寄与できるようにしていく。